

## 研究報告 第 154 号 摘要一覧

---

### 加圧脱水ケーキで育苗したイチゴ苗の生育に及ぼすリン酸肥料の効果

加圧脱水ケーキは本県におけるイチゴの育苗培土に利用されている湿式造粒脱水ケーキ（以後、さがみ粒土）の代替培土として期待されている。加圧脱水ケーキを単体でイチゴの育苗培土として利用した時、苗の生育が遅延し、リン酸欠乏症と推測される葉脈の周辺が赤紫色を呈する生理障害が生じる。そこで、加圧脱水ケーキを用いてイチゴ苗を正常に生育させるための要因を明らかにするため、肥料要素の効果について検討した。加圧脱水ケーキに窒素、リン酸、カリの肥料三要素を組み合わせることで施用した培土でイチゴ苗を育てた結果、リン酸を 2.5g/L 程度与えると生理障害症状を生じることなく正常に生育した。また、加圧脱水ケーキにバーミキュライトもしくはパーライトを 25%(v/v)混合した場合でも、リン酸を施用すれば正常に生育した。以上のことから、加圧脱水ケーキで育苗する場合、イチゴ苗の生育に最も影響する要因はリン酸であり、リン酸を 2.5g/L 程度施用すれば、生理障害の発生もなく、正常に生育することが明らかとなった。

### 神奈川県における短節間セイヨウカボチャ (Cucurbita maxima Duch.) 品種'TC2A'の生育・収量特性

神奈川において、短節間で果実品質の高いセイヨウカボチャ (Cucurbita maxima Duch.) 品種'TC2A'を集約的なカボチャ栽培に利用するため、その生育特性を短節間性の発現に着目して 2007~2009 年の 3 年間にわたり調査した。その結果、'TC2A'の短節間性は、3月下旬から4月下旬播種までの作期で、かつ、第

1 果着果節までの節（11～13 節）までは安定して発揮されたが、5 月以降の作期になると節位に関わりなく短節間性は消失した。また、4 月下旬までの適作期であっても、第 1 果着果節より上位節になると短節間性は徐々に消失した。この適作期における栽植密度と収量について検討したところ、100 株/a（株間 50cm、畝幅 2m）で最大値を示し、'TC2A'の最適栽植密度は 100 株/a であることが明らかになった。また、この場合、側枝を摘除せず放任管理にしても、発生した側枝にもよく着果することから、単位面積収量は整枝区より多収となった。以上の結果から、'TC2A'は高い集約栽培適性と省力性を有する収量性の高く、高品質な短節間のセイヨウカボチャ品種であることが明らかになった。今後、'TC2A'を利用した早春どりトンネル青切りタマネギ栽培との一貫栽培体系への展開が期待される。

## 二ホンナシ新品種'香麗'及び'なつみず'の育成経過とその特性

早生・大玉の二ホンナシ品種の育成を目的として 1998 年に交雑を行い、'香麗'及び'なつみず'の 2 品種を育成した。'香麗'は 7 月下旬から 8 月上旬に収穫される赤ナシで、平均果重 430g 程度と大玉で、糖度は 13.4%で酸味はなく'筑水'に似た香りをわずかに有する品種である。'なつみず'は 8 月上旬から 8 月中旬に収穫される赤ナシで、平均果重 430g 程度と大玉で、果形がよく外観良好であり、糖度は 13.1%で糖酸のバランスがよく食味良好な品種である。